



平成26年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成26年2月3日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <http://www.okashinet.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部长 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	17,126	10.5	1,861	18.0	1,876	18.0	1,023	11.8
25年3月期第3四半期	15,497	5.4	1,578	23.3	1,590	27.9	915	49.8

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 1,021百万円 (12.0%) 25年3月期第3四半期 912百万円 (46.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	98.68	
25年3月期第3四半期	88.29	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	14,573	7,800	53.5	751.99
25年3月期	13,754	7,089	51.5	683.47

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 7,800百万円 25年3月期 7,089百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期		0.00		30.00	30.00
26年3月期		0.00			
26年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,750	5.3	2,100	12.2	2,100	11.1	1,170	12.2	112.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	10,373,840 株	25年3月期	10,373,840 株
期末自己株式数	26年3月期3Q	364 株	25年3月期	364 株
期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	10,373,476 株	25年3月期3Q	10,373,481 株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はT Dnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における事業環境は、新政権の景気回復に向けた経済政策への期待感を背景に高額商品の消費が上向くなど消費マインドに改善の兆しが見られた反面、雇用情勢や所得環境の改善の遅れに加え、消費税増税など先行きに対する懸念から節約志向がまだ強く、楽観視できない状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、経営理念「喜びを創り喜びを提供する」の具現化を目指し、『ニューコンセプトメーカー』のスローガンのもと、重点施策として新ブランド・新商品・新店舗創り、新ビジネス、海外展開を推進し、「新領域創造」と「高い価値の創造」にチャレンジしてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、首都圏での展開強化、遷宮・奉祝イベント効果で観光客が増加傾向にある東海地区及び山陰地区が好調に推移したことなどにより17,126百万円（前年同期比10.5%増）となりました。利益面では、販売費及び一般管理費が人件費、販売促進費の増加などにより7,252百万円（前年同期比12.2%増）となった一方、増収効果に加え売上総利益率が前年同期の51.9%から53.2%と1.3ポイント増加したことにより、営業利益は1,861百万円（前年同期比18.0%増）、経常利益は1,876百万円（前年同期比18.0%増）、四半期純利益は1,023百万円（前年同期比11.8%増）となりました。

なお、海外展開につきましては、平成24年11月に設立した非連結子会社の台湾北壽心股份有限公司が平成25年7月、台湾台北市に海外初出店となるカフェ店舗「KONAYUKI」を立ち上げました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

従来、「その他」に含めておりました「ジャパルシー」については、量的な重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より報告セグメントとして記載する方法に変更しており、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、前年同四半期の算定方法につきましても当四半期の区分に組み替え後の数値に基づいて算定しております。

① ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、グループ向け売上が増加したことに加え、プロモーションと連動した主力商品の販売強化、新商品の投入などにより道内店舗が堅調に推移したほか、ギフト対策の強化、楽天市場などネット通販対策の強化により通信販売が伸びました。また、新規出店では、平成25年7月、東京・表参道にアントルメグラッセの専門店「グラッセル」を出店いたしました。

その結果、売上高は、5,769百万円（前年同期比8.3%増）となり、営業利益は620百万円（前年同期比0.5%減）となりました。

② 寿製菓

寿製菓は、出雲大社の「平成の大遷宮」行事により観光客が増加傾向にある山陰地区において主力商品「因幡の白うさぎ」の販売強化や20周年を迎えた「お菓子の壽城」のイベント開催など地元対策の強化に注力し、その他では代理店向け売上の伸びた結果、売上高は6,345百万円（前年同期比10.8%増）となり、利益面におきましても製造稼働率の向上などによる売上総利益率の改善が寄与し営業利益は806百万円（前年同期比36.9%増）となりました。

③ 販売子会社

販売子会社は、駅・空港・高速道路などの交通機関チャンネルを中心に、販売強化に努めました。地区別では、九州地区が低迷した一方、東海地区は、発売3年目を迎えた「小倉トーストラングドシャ」の拡販と伊勢神宮の遷宮効果による観光客増加などにより堅調に推移しました。また、関西地区では駅・空港が低迷した一方、新商品の投入、催事展開の強化などにより概ね前年同水準となりました。その結果、売上高は3,538百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益は223百万円（前年同期比22.2%増）となりました。

④ 九十九島グループ

九十九島グループは、大手テーマパーク向け売上が低迷した一方、主力商品の販売強化、福岡・大名に平成25年6月にオープンしたフレンチトースの専門店「アイボリッシュ」の展開強化に努めました。また、平成25年11月に長崎県佐世保市にオープンした商業施設「させぼ五番街」に「赤い風船」ブランドでの出店を行いました。その結果、売上高は2,322百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益は149百万円（前年同期比14.5%減）となりました。

⑤ 但馬寿

但馬寿は、主力商品の「遊月亭の黒豆茶」の通信販売が伸び悩んだ一方、「伊勢奉祝えび煎餅」などグループ向け売上が堅調に推移した結果、売上高は914百万円（前年同期比11.2%増）、営業利益は93百万円（前年同期比28.4%増）となりました。

⑥ シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しておりますシュクレイは、前期の出店効果、催事展開、接客サービスの向上及び販促強化などにより既存店舗が好調に推移した結果、売上高は1,746百万円（前年同期比45.8%増）となり、営業利益は64百万円（前年同期比39.7%増）となりました。

⑦ ジャパルシー

美と健康をテーマに事業を展開するジャパルシーは、昨年10月より試験的に事業を開始し、本年5月に事業を本格稼働いたしました。「栃の実」・「藍」などの天然由来素材の有効性を活かした健康食品を主力にシャンプー、ボディシャンプーなどのパーソナルケア製品や化粧品ブランド「アイサクラ」を商品群に加え、事業モデルの確立と会員顧客獲得に向けて説明会の開催やキャンペーンの実施などに注力いたしました。その結果、売上高は138百万円（前年同期は22百万円）となり、営業損失は105百万円（前年同期は営業損失130百万円）となりました。

⑧ その他

その他は、損害保険代理業、通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。売上高は29百万円（前年同期は6百万円）となり、利益面では通販基幹業務システムサービスの人件費の増加などにより営業損失は42百万円（前年同期は営業損失5百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、14,573百万円となり、前連結会計年度末と比べ818百万円増加しました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加（668百万円）、商品及び製品の増加（197百万円）、現金及び預金の減少（373百万円）などの要因によるものです。

負債は、6,772百万円となり、前連結会計年度末と比べ107百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加（282百万円）、長期借入金の増加（111百万円）、1年内返済予定の長期借入金の減少（245百万円）、賞与引当金の減少（150百万円）などの要因によるものです。

純資産は、7,800百万円となり、前連結会計年度末と比べ710百万円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益の計上による増加（1,023百万円）、配当金の支払いによる減少（311百万円）などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.0ポイント増加し、53.5%となり、1株当たりの純資産は751円99銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、当第3四半期業績は概ね計画どおりで進捗いたしており、本資料発表日現在におきましては、前回公表数字（平成25年5月13日付「平成25年3月期決算短信」）からの変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,647,934	2,274,752
受取手形及び売掛金	2,145,427	2,813,778
商品及び製品	592,651	789,986
仕掛品	26,452	33,102
原材料及び貯蔵品	329,949	380,798
その他	387,657	436,743
貸倒引当金	△10,029	△10,912
流動資産合計	6,120,041	6,718,247
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,991,335	3,149,224
機械装置及び運搬具（純額）	561,731	592,332
工具、器具及び備品（純額）	222,689	233,883
土地	2,500,667	2,500,667
リース資産（純額）	30,717	15,565
建設仮勘定	62,498	9,867
有形固定資産合計	6,369,637	6,501,538
無形固定資産	131,230	122,007
投資その他の資産		
その他	1,223,062	1,261,229
貸倒引当金	△89,076	△29,594
投資その他の資産合計	1,133,986	1,231,635
固定資産合計	7,634,853	7,855,180
資産合計	13,754,894	14,573,427
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	758,528	1,041,122
短期借入金	2,000,000	2,100,000
1年内返済予定の長期借入金	618,804	373,028
未払法人税等	439,214	437,675
賞与引当金	361,847	211,647
その他	891,718	886,018
流動負債合計	5,070,111	5,049,490
固定負債		
長期借入金	550,813	662,552
退職給付引当金	784,326	816,756
その他	259,686	243,896
固定負債合計	1,594,825	1,723,204
負債合計	6,664,936	6,772,694

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	4,522,054	5,234,544
自己株式	△326	△326
株主資本合計	7,062,689	7,775,179
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,269	25,554
その他の包括利益累計額合計	27,269	25,554
純資産合計	7,089,958	7,800,733
負債純資産合計	13,754,894	14,573,427

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	15,497,460	17,126,330
売上原価	7,454,535	8,011,471
売上総利益	8,042,925	9,114,859
販売費及び一般管理費	6,464,462	7,252,960
営業利益	1,578,463	1,861,899
営業外収益		
受取利息	271	264
受取配当金	2,909	2,934
受取地代家賃	13,796	12,086
その他	29,671	31,353
営業外収益合計	46,647	46,637
営業外費用		
支払利息	29,230	22,775
その他	5,684	9,411
営業外費用合計	34,914	32,186
経常利益	1,590,196	1,876,350
特別損失		
固定資産売却損	1,815	76
固定資産除却損	3,515	25,064
特別損失合計	5,330	25,140
税金等調整前四半期純利益	1,584,866	1,851,210
法人税等	669,006	827,516
少数株主損益調整前四半期純利益	915,860	1,023,694
四半期純利益	915,860	1,023,694

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	915,860	1,023,694
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,101	△1,715
その他の包括利益合計	△3,101	△1,715
四半期包括利益	912,759	1,021,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	912,759	1,021,979

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シー	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シユクレイ	ジャパル シー
売上高							
外部顧客への売上高	4,903,488	3,715,467	3,278,930	2,126,036	246,797	1,197,895	22,028
セグメント間の内部 売上高又は振替高	423,536	2,010,837	3,158	222,341	575,660	—	—
計	5,327,024	5,726,304	3,282,088	2,348,377	822,457	1,197,895	22,028
セグメント利益 (△は損失)	623,819	589,237	183,008	175,053	72,549	46,329	△130,880

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	15,490,641	6,819	15,497,460	—	15,497,460
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,235,532	—	3,235,532	△3,235,532	—
計	18,726,173	6,819	18,732,992	△3,235,532	15,497,460
セグメント利益 (△は損失)	1,559,115	△5,372	1,553,743	24,720	1,578,463

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額24,720千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額423,692千円、セグメント間取引消去額13,019千円、たな卸資産の調整額△35,145千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△376,846千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シー	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	ジャパル シー
売上高							
外部顧客への売上高	5,082,889	4,250,609	3,538,601	2,107,311	232,743	1,746,738	138,902
セグメント間の内部 売上高又は振替高	686,124	2,095,248	—	215,424	681,770	—	—
計	5,769,013	6,345,857	3,538,601	2,322,735	914,513	1,746,738	138,902
セグメント利益 (△は損失)	620,827	806,788	223,653	149,635	93,126	64,738	△105,289

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	17,097,793	28,537	17,126,330	—	17,126,330
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,678,566	1,053	3,679,619	△3,679,619	—
計	20,776,359	29,590	20,805,949	△3,679,619	17,126,330
セグメント利益 (△は損失)	1,853,478	△42,121	1,811,357	50,542	1,861,899

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業、通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。
2. セグメント利益(△は損失)の調整額50,542千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額474,533千円、セグメント間取引消去額11,593千円、たな卸資産の調整額△40,412千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△395,172千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より「その他」に含めておりました「ジャパルシー」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、前第3四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。